

リクローニー（帰国子女）

・「過保護甘ったれ族」

新井課長は優しく諭したつもりであったが、浦山君は突然大声を出して反論をはじめた。

「そんなこと言わなかったじゃないですか」

「最初から言ってくださいよ。そもそもなんでボクがこんな仕事をしなくちゃならないんですかー」

「そこらへんのハケン社員とかにやらせておけばいいでしょう！」

つまらない仕事はもっとレベルの低い社員にやらせておけ、といった考えを露骨に発揮するこの社員は、過保護で育ったわがまま青年に違いない。

いまの若者は、責任を負うことがとても苦手である。避けようとする。いや、会社すら辞めようとする。そしてまたこの青年のように、上司から諭されると、いまの若者は女性であれば泣いてみたり、男性であれば翌日会社を休んだり、あるいは辞めてしまうなどということもいとも簡単に行うのである。

このようなことがいまの若者の特徴であり、入社一年で社員の約三割が辞めるという、いまの日本の現状を表している典型的な青年とも言えるだろう。一般に日本の青年たちは労働に向いておらず、消費にだけ向いているのである。その消費も、親の金を利用して消費することが多く、これが日本の若者中心の消費社会なのである。

このような人の性格は、「過保護甘ったれ族」としか言いようがない。文句を言われる覚えはありません」

・自分の仕事しかしない利己的社員

「このプロジェクトつて、あいつの担当なんですよ。なのに、なんで俺らが残業してまでがんばっているのに、あいつは先に帰れるのですか？ 無責任過ぎますよ。マネージャーからも仲間の仕事を手伝うように言ってください」

三浦マネージャーが、B社員に理由を問いただすと、

「どうして帰ってはいけないのですか？ だって、僕のプロジェクトとはいえ、みんなで打ち合わせをして仕事の分担を決めたんだから、自分の分担はそれぞれがやるのは当然でしょう。僕は自分のやるべき仕事が終わったから帰るのであって、それに対して誰からも文句を言われる覚えはありません」

スピリチュアル

霊的 {れいてき} な [宗教的 {しゅうきょう てき} な] こと [もの] ◆通例、spirituals

・DV 妻

先日もレストランに入ったとき、メニューに迷っていたら、突然オシボリが顔面めがけて飛んできた。

「てめえ、ふざけんじゃないよ！」

妻のドスのきいた大声に周りの客が凍りついた。

「男だろ、メニューくらいすぐに決めろよ」

空腹だった妻がキゲンを損ねたのだった。ここで反論すると、妻はもっとキレてしまうから、ぐっと我慢するしかないのだ。

電車の中でわざわざケンカをふっかけたり、わざわざ足を広げて携帯で怒鳴ったりする人がいるが、このような人は他人にケンカをふかけて暴力を振るうことが多い。

反社会性の人たちは、別に言う「サイコパス」とも言える人たちであり、共感性がなく、憐れみに乏しく、ウソをつくのがうまく、ときに過剰な自尊心を持って、自己愛的でもある。このような人たちは先に述べたような、平気でウソをつく人たちの中にも入る。

・ストーリー

「もうあなたとは会えないわ。電話もしないで」
と伝えたときから、彼の態度が急変した。
「君のことを本気で愛しているんだ。絶対に別れたくない。別れたくないんだ！」
電話の向こうで絶叫する声が聞こえた。
しかし、次の電話では、
「別れるだと！ オレと別れて、おまえみたいな女が幸せになれると思ってるのか！」
高圧的な口調で脅しをかけてきた。しかし、次には、
「ごめんよ。ごめん。ボクが悪かった。どこを直せばいいの。教えて」
と泣きながら電話を寄こしてくるのだ。
晴海さんは、相手のその豹変する態度に怖れをいだいて、彼からの電話に出なくなった。
そうすると、一日に何十本もの留守電が入るようになる。それは「別れたくない」という
絶叫と、「おまえなんか最低の女だ」という怒鳴り声と、「悪いところを直すから」という
哀願の繰り返しである。
・・・(待ち伏せに至る)

・元大学教授の痴漢常習

二〇〇四年に大学教授が痴漢騒ぎを起こした。品川駅のエスカレーターで女子高校生のスカートの中を手鏡で覗こうとして逮捕された事件である。テレビにもよく登場する生真面目な印象の教授ただけに、その不祥事はマスコミに取り上げられ広く知れわたることになった。

教授は「天地神明に誓って無実」と主張したが、結局、罰金五〇万円の刑が確定した。普通の人から見れば、そんなことで有名大学の教授の職を投げ打った愚かさのほうに驚きである。

しかし、話はそれでは終わらなかった。二年後再び、京急線の電車の中で女子高校生に痴漢行為をしたとして、東京都迷惑防止条例違反で逮捕された。一度は失った大学教授のイスを再び手にしたばかりの事件である。教授は、その事件に関しても無罪を主張して公判中ではあるが、仕事のほうは**免職処分**を受けた。

公判で無実を主張して争う分だけ、各マスコミからさまざまな情報が漏れ伝わってくる。一九九八年に東海道線の中で痴漢行為を行って、神奈川県迷惑防止条例違反で五万円の罰金刑を受けたこと。それ以前にも、チェック柄のスカートを狙った痴漢行為などで、被害者と示談したことが**過去七回**もあること。検察側が押収した証拠から、教授には特異な性的嗜好があったことなどが暴露されてしまうことになった。

これらの真偽は、マスコミ情報だけに一〇〇パーセント信じるわけにもいかないが、元教授の人間性を損傷させるには十分な話題となる。

元大学教授には七歳年下の妻と一人息子がいると聞くが、そういう家族がいても、踏みとどまることができなかつたのか、と残念でならない。

・平気でウソをつく女

彼女と付き合いはじめて三か月、藤城君は彼女のことが信じられなくなりつつある。

母子家庭で苦労してきたことや、大学に入学したものの経済的理由で退学したことなど、率直に自分を語るところが気に入って付き合いだしたのだった。いまは派遣でテレフオンアポインターの仕事をしている。

ところが、最近一緒にいるときでも彼女の携帯が鳴り、相手と親しそうに会話をしている。「誰から」と聞くと、「弟から」と答えた。

「え一つ、弟がいたの？ 母子二人って言ってなかった？」

「あら、そんなこと言ったっけ。弟がいるのよ。正確に言うと、義理の弟になるのかな。お母さんの再婚相手の子。東京に就職してきたばかりだから、私のことを頼っちゃっているのよ」

「母子家庭じゃなかったの？」

「そうだったんだけど、わたしが高校生のときママが再婚したの。話してなかったかな」

・・・

以前は遠慮がちに電話をしていた彼女が、この話題以降、おおっぴらに相手と話をするようになったことだけは事実だ。

ゆくゆくはあなたと暮らすために安定した職に就きたい。そのために、「介護士」の国家資格を取りたい、できればそのための資金を貸してくれないかと言われて、いま藤城君は悩んでいるところである。

・「ブランド依存症」

秋本さんが、いまの奥さんと知り合ったのは三年前。彼女が新入社員として入社してきたときだ。何不自由のない家庭で育てられたお嬢さんで、少しワガママなところはあったものの、その素直な明るさに引かれて、結婚にいたったというわけである。

ちょうど三〇歳を前にして、仕事も忙しくなった秋本さんは家庭のことは彼女に任せて仕事に打ち込むことができた。週末くらいしかゆっくりと過ごせないが、週に一度は外食を楽しんでいる。いつもきれいに装っている妻を連れて歩くのはちょっとした自慢でもあった。

毎回違う洋服、バッグ、時計とコーディネートしている妻を見て、衣装持ちなんだと思ったが、OL時代に買いそろえたものだろうし、また、新しく買ったにしても自分の貯金で買っているのならかまわないだろうと軽く考えていた。毎日家庭にいる妻のストレス解消はショッピングくらいしかないのだろうなと思っていたのだ。

ところが、ある日、秋本さん宛に送られてきたクレジット会社の請求書を見て愕然とした。請求金額が六七万五五〇〇円となっている。カードは現金が足りないときに使うくらいで、多くても毎月の請求額は三万円を超えない。何かの間違いだろうと明細書を見直すと、秋本さんの知らない店の名前があって、家族カードで使われていた。

妻に問いただすと、高級ブランドのバッグを買ったのだという。

「どういうことなんだ！オレの給料がいくらかわかっているのか」

もしや、と思って妻のクローゼットを開けると、出てくるわ出てくるわ、バッグ、洋服、時計……、なかにはまだブランドの袋に入ったままのものさえあった。

なんと妻は「ブランド依存症」に陥っていたのだった。

・セックス依存症

女性のセックス依存症だけが、私たちのところに来る。そのセックス依存症は、毎日セックスがなければいられない、ということである。夜になって誰も相手をしてくれる男性がいないと、まず落ち着かなくなり、メールでいろんな人と連絡し、あるいは出会い系サイトに自分を登場させ、相手を求める。

初めて出会う男性であっても、恐れることなくその相手の部屋に入っていくことができる人たちである。

このようなセックス依存症の人たちに、「セックスが本当に好きなの」と聞くと、半分ぐらいは「あまり好きではないけれど、孤独で寂しいから抱いてもらいたい、それだけなんです」と答える。

セックス依存症は、知的レベルとはあまり関係がないと言ってよい。いや、むしろ知的レベルが高い人のほうがやや多いものでもある。

アクシス I ; 精神的な症状による分類

(1) 精神分裂病

- ・現実と非現実を区別できない状態

(2) 躁うつ病とうつ病

うつ

-買い物依存症、ブランド依存症（うさをはらす）

(3) かつての神経症群

1) 「不安障害」(パニック障害・恐怖症・強迫性障害など)

- ・強迫性障害(清潔幻想・・・)

2) 「身体表現性障害」(身体化障害・心気症・転換性障害・疼痛性障害・醜形恐怖・自己臭恐怖など)

・身体醜形恐怖(肩幅が広すぎる、脚が太い、胴が長い・・・)理想を肯定し、現実の自分を否定する。／家の中に、やたらと鏡をおいて自分をチェックするようになる。

- 170cmの女子高生、どこでも顔一つ抜け出て恥ずかしい。脚が長いのが目立つから、脚をきってしまいたい。 =>高2で飛び降り自殺。

3) 「解離性障害」(心因性健忘・多重人格・離人症など)

- 4) 「食行動異常」 (過食症・拒食症)
- 5) 「適応障害」 (ストレスによる一時的な不適応)

アクシス II ; 人間の持つ性格特性を人格障害として分類

クラスターA ; 「奇妙で風変わりな人格群」

- 1) 「妄想性人格障害」 (猜疑心や嫉妬心が強く、被害妄想の傾向がある)
- 2) 「分裂病質人格障害」 (感情が鈍く、自閉的)
 - 母親がほとんど何から何まで世話をしてやらないときちんとした生活さえできないレベルであった。風呂を沸かしたり洋服を選んだりといった、細々した誰もが毎日当たり前にやっていることが、まったくできない。
- 3) 「分裂病型人格障害」 (分裂病に近く、妄想傾向がある。遺伝子も関与)
 - ・神秘的なもの、テレパシー、前世のような非現実的な現象を信じているもので、現実感の乏しい人たち。

クラスターB ; 「感情が混乱する人格群」

- 1) 「反社会性人格障害」 (共感能力がなく、盗み、おどし、暴力などに走る。崩壊家庭に多く、遺伝子の関与も考えられる)
 - ・10歳前後から起こる。
- 1')サイコパス (ドイツ語。英語はサイコパシー)
 - ・残酷で哀れみの気持ちに欠け、共感性がなく、うつとか不安というような普通の人が持っている気分も持ち合わせず、人をだますのがうまいということです。遺伝と環境の要素が大きい。
- 2) 「境界性人格障害」 (ボーダーラインのこと。衝動的で愛情欲求が強く、自立心に乏しい)
 - ・嫉妬深く、キレやすい。女性はうまく隠しているが、時間が立つにしたがって、かくしきれなくなる。
 - ストーカー。
- 3) 「演技性人格障害」 (自己中心的、演技的で、感情表現はオーバーだが深みに欠ける)
 - ・自己演劇化、あるいは芝居がかった態度、誇張した情緒表現が多く見られ、過度に印象的だが内容のない話し方をする。また自分が注目の的になっていない状況では、本人は楽しくないと感じる。他者との交流では、しばしば不適切なほど性的に誘惑的な、挑発的な行動によって特徴づけられる。また考えが浅く、素早く変化する感情表出を示す、自分への関心を引くために絶えず身体的外見を用いる、などということが言われている。
 - ・虚栄心が強い。
 - 平気でウソをつく女 (女性は、ウソをつくのが極めてうまいものである。そしてそれは、信じられないほど自然に、演技的にウソをつくものでもある。)
- 4) 「自己愛性人格障害」 (自分を特別視し、そう扱われたいと望む。共感能力がなく、嫉妬深い)
 - ・有名人好き (有名な医者に診てもらってきた・・・)
 - プライドをいつも高いところに置き、それが傷ついたときには、人が変わったような怒り方をする。仕事のミス、

クラスターC ; 「不安が強い人格群」

- 1) 「回避性人格障害」 (自尊心が傷つきやすく、自分を受け入れるとこでなければ行けない)
 - ・内弁慶 (弱虫で外ではいじめられるが、家に帰れば母親にいばる)
 - ・閉じこもり、パラサイト・シングル (外との接触を嫌い、人におびえて家に引きこもる)
- 2) 「依存性人格障害」 (自信や決断力がなく、甘える。日本人に多い)
 - ・「依存性人格障害」の人たちの行動や対人的なスタイルは、従順さ、受身、主張をしない、という点にある。対人関係では人を喜ばせようとし、自己犠牲的になろうとし、相手にしがみつこうとする。
 - 彼らは、絶えず他人からの保障を必要とする。他人に盲従し依存するが、そのことによ

って他人が彼らの生活の主たる領域で責任をとってくれることをひそかに要求している。彼らは、人生に対して楽天的なスタイルをとり、困難を最小限にしようと生活しているのだ。しかし、彼らは素朴なので、すぐに説得されやすく、他人から利用されやすい性格を持っている。

感情面では、不安定で不安感が多いものである。彼らは何事にも自信を持っていないので、一人でやることにかなりの不快感を感じている。また、いつも人に見捨てられるのではないか、あるいは他人に承認されないのではないかという不安で一杯なのである。

彼らは表面は温かく愛情的な雰囲気を持っているが、心の底では、自分が無力で、自分自身が何かをやっていくことに強い恐怖を持っている。

3) 「強迫性人格障害」 (細部にこだわり、規則を遵守する完全癖)

・このタイプは、概してワーカホリックであり、対人関係的には社会的な地位やランクというものを、極めて敏感に意識している。つまり上司や目上の人には敬意を払い、媚びへつらう態度を示す傾向があるが、部下や同僚には尊大であったり、あるいは独裁者のような振る舞いをすることがある。

ADHD (注意欠陥多動性障害)

- ・凶悪犯罪の犯人の 60% 以上は、中学生のころまで ADHD であったと言われる。
- ・児童の 5% が ADHD と言われている。
- ・ADHD (注意欠陥多動性障害) ; 集中力がなく、静かに座っていることができなくて、むだな動きが多く、暴力的という特徴がある。
 - 机を片づけられない。女性教師の机の上は、教科書、書類、レポートでいっぱい、隣席へなだれ落ちがあるほど。